

[山陰地方消費動向調査（平成 25 年 11 月調査）]

2 年ぶりに暮らし向きが改善、
先行きは慎重な見通し

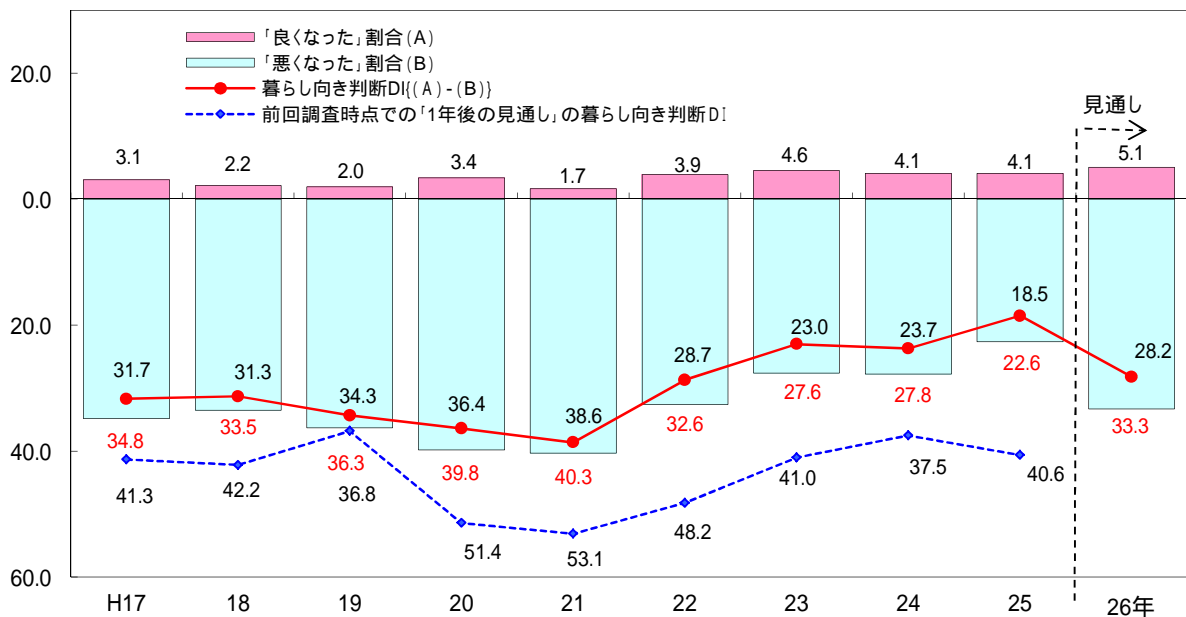
～冷え込んでいた消費マインドは、足元で若干和らぐ～

当研究所では、このほど山陰地方の消費動向を把握するため、鳥取・島根両県内の消費者を中心にアンケート調査を実施した（調査要領は下記参照）。

足元（25 年 11 月）の暮らし向きについて尋ねたところ、1 年前に比べて「良くなった」が 4.1%、「悪くなった」が 22.6%となり、「暮らし向き判断 D I（「良くなった」割合 - 「悪くなった」割合）」は前回調査比 5.2 ポイント増の 18.5 と、2 年ぶりに改善した。

一方、先行き（26 年）の「暮らし向き判断 D I」は、9.7 ポイント減の 28.2 と足元に比べて悪化しており、慎重な見通しとなった。

図表 1. 暮らし向き判断 D I（「良くなった」割合 - 「悪くなった」割合）の推移



例：平成 25 年の 40.6 は、24 年 11 月時点での「1 年後(25 年)の暮らし向き判断 D I」を示す。

【調査要領】

1. 期 間 平成 25 年 11 月 5 日～11 月 19 日
2. 対 象 鳥取県・島根県在住の男女
3. 調 査 方 法 山陰合同銀行の山陰両県内本支店の店頭にてアンケート用紙を配布、店頭および返信用封筒にて回収
4. 回 答 数 配布数 2,500 枚 有効回答数 573 枚（回収率 22.9%）
5. 回答者構成比 10・20 代 7.6%、30 代 19.6%、40 代 36.1%、50 代以上 36.7%

〔調査結果の概要〕

1．暮らし向き

足元(25年11月)の「暮らし向き判断DI」は前回調査比5.2ポイント増の18.5と、2年ぶりに改善した。また、先行き(26年)は28.2と、足元に比べて悪化しており、慎重な見通しとなった。

2．総収入の動向

「総収入判断DI」は前回調査比8.4ポイント増の12.7と、2年ぶりに改善した。年代が上がるにつれて厳しさを増す結果となったが、前回調査と比べて改善した。

3．消費生活の動向

「消費支出額判断DI」は前回調査比8.9ポイント増の28.7と、2年ぶりに前回調査を上回った。

4．今後の家計の重点

「貯蓄の充実(53.1%)」がトップであり、依然として堅実志向が強い。前回調査と比べ、「耐久消費財の購入(2.2ポイント減)」が最も減少したが、「食生活の向上(4.3ポイント増)」などが増加した。

5．家計支出の動向

この1年間で支出が増えた費目で最も回答が多かったのは、「食料・外食費(30.6%)」となり、前回調査に比べ、2.1ポイント増加した。

今後1年間で支出を増やしたい費目で最も回答が多かったのは「旅行・レジャー・娯楽費(35.7%)」であった。一方、支出を減らしたい費目で回答が多かったのは「水道・光熱費(32.2%)」、「食費・外食費(25.0%)」などであった。

6．貯蓄動向

10・20代では、「増加した」と回答した割合が半数以上であった。一方、年代が上がるほど「減少した」と回答した割合が増加した。

7．雇用に対する不安

前回調査と比べ、全ての年代で雇用に対する不安が低下した。

8．消費税増税時の消費行動

全体の約55%が「増税相当分を節約する」と回答した。

全体の45.0%が、消費税の引き上げ前に、商品を購入または購入の検討をしており、増税前の駆け込み需要がうかがえる結果となった。

購入または購入予定の商品は、全体では家電製品や自動車などを中心とする耐久消費財の回答割合が高かった。